

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成24年10月11日(木) 5校時
児 童 男子5名 女子2名 計7名
指導者 菅野 さと美

- 1 単元名 人物の気持ちの変化を考えながら読み、感想を伝え合おう
教材名 「サーカスのライオン (東京書籍 3年下)」

2 単元について

(1) 児童について

児童は、6月教材「ゆうすげ村の小さな旅館」で場面の移り変わりを読み取り、あらすじをまとめる学習をした。時間と出来事を表にまとめる活動を通して、細かい部分や繰り返されている部分を省いたり、短い言葉で言い換えたりして、あらすじをまとめる力がついてきている。

読書の好きな児童が多く、短い時間でも本を手に取り読む姿が見られる。文字を読むことへの抵抗も比較的少ない。

これまでの学習で、児童の殆どが人物の気持ちを直接的に表現した叙述については押さえることができるので、更に、なぜそのような会話や行動をしたのかを考えることによって、人物の気持ちに迫ることができることを分かせたい。

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領の「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」を重点に指導しようとするものである。

本単元では、叙述を基に、人物の気持ちを読み取る力、場面と場面の移り変わりを押さえ、その流れに沿って気持ちを読み取る力を付けることをねらいとしている。また、人物の行動について考えをまとめたり、人物に伝えたいことを文章に書いたりする活動を通して、物語のとらえ方や感想に一人一人の感じ方の違いがあることを知り、多様な読みがあることを理解させたい。

本教材「サーカスのライオン」は心のふれあいの大切さを強く訴えかける作品である。この物語は、「設定—展開—山場—結末」がはっきりした五つの場面で構成されている。時間の経過に沿って物語は進行し、時や場所も具体的に描かれており、登場人物もはっきりしているため児童にもとらえやすい。個々の感想を大切にしながら、その感想の根拠をさぐること、行動や表情の描写に表された心情を読み深めさせたい。

(3) 指導にあたって

本単元では、言語活動例「ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと」を具体化し、「中心人物であるじんぎに手紙を書く」という言語活動を設定する。感想を述べ合う方法として、感想文よりも手紙という形の方がより自分の気持ちを素直に伝えられると考えるためである。

仮説(1)の「習得した知識・技能を活用する言語活動の展開」に関わっては、まず、これまでの学習を生かし、場面の移り変わりをきちんと押さえて、あらすじをつかむ。その後人物の会話や行動、情景描写などの叙述に隠されている気持ちを想像する学習を行う。手紙を書いて交流するという言語活動につなげるために、場面を読み取る度に、その場面について「もしも自分だったら」という観点で一・二文程度の感想を書きため、手紙を書くときに生かすようにしたい。

仮説（２）の「叙述を根拠にして思考する場面を位置付けた指導」に関わっては、本教材では特に中心人物の会話や行動の描写に着目させて読み取らせていく。なぜそのような会話や行動をしたのかを考えることは、物語を深く読み取るだけでなく、人間を理解する一端ともなる。その際、一場面からだけ考えさせるのではなく、物語全体を通して考えさせるようにしたい。更に、情景描写にも作者の気持ちが表れていることに気付かせ、今後の読書が、より叙述に着目した読みとなるようにさせていきたい。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- 物語に興味をもち、人物の気持ちの変化を考えながら読もうとする。

【読むこと】

- ◎ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化について叙述を基に想像して読むことができる。（読むこと ウ）
- 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くことができる。（読むこと オ）

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 漢字と仮名では、音節との関係や書き表す語の種類など、文字としての性質や役割が異なることを理解し、表記の仕方に気をつけて文や文章を読むことができる。（伝国 イ）

4 単元の評価規準

| 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・物語に興味をもち、人物の気持ちの変化を考えながら読もうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読んでいる。（ウ） ・物語を読んだ感想を、どの叙述に基づいているか、自分の経験などとどう関連しているのかを明らかにしながら発表し合い、一人一人の感じ方に違いのあることに気付いている。（オ） | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字と仮名とでは、音節との関係や書き表す語の種類など、文字としての性質や役割が異なることを理解し、「漢字仮名交じり文」という日本語の表記の仕方に気をつけて、文や文章を読んでいる。（イ(イ)） |

5 単元の指導計画と評価規準（8時間）

| 段階 | 時 | 学習活動 | ・指導上の留意点 □ 具体の評価規準（方法） | 取り上げる言葉 |
|------------|---|--|--|---|
| 第一次 (1) | | 学習の見通しをもつ。 | | |
| | 1 | <p>◎学習のねらいを確かめ、じんざへ手紙を書き感想を交流することへの意欲をもつ。</p> <p>・「サーカスのライオン」の音読をし、あらすじを確かめる。</p> <p>・初発の感想を交流する。</p> <p>・「じんざへ手紙を書く」という学習課題を設定する。</p> | <p>・場面の出来事のかんたんに確かめる。</p> <p>関 これからの学習のねらいや見通しをとらえている。(観察)</p> | 感想手紙 |
| 第二次 (5) | | じんざの気持ちの変化を読み取る。 | | |
| | 2 | <p>◎サーカスにいるじんざの様子や気持ちを読み取る。</p> <p>・じんざの行動から気持ちを想像する。</p> | <p>読 サークスの中で過ごしてきたじんざの境遇や気持ちを読み取っている。(発言・ワークシート)</p> | <p>・年とっていた</p> <p>・アフリカのゆめ</p> <p>・風のように</p> <p>・のそりと</p> |
| | 3 | <p>◎夜のさん歩で男の子と出会ったじんざの様子や気持ちを読み取る。</p> <p>・じんざの行動や会話から気持ちを想像する。</p> | <p>読 男の子と出会ったじんざの気持ちの変化を読み取っている。(発言・ワークシート)</p> | <p>・外はいいなあ</p> <p>・しょげる</p> <p>・ぐぐっとむねのあたりがあつくなる</p> |
| | 4 | <p>◎男の子と会っている時のじんざの様子や気持ちを読み取る。</p> <p>・じんざの行動や会話から気持ちを想像する。</p> | <p>読 男の子との交流を通じたじんざの気持ちの高まりを読み取っている。(発言・ワークシート)</p> | <p>・目を細くして</p> <p>・乗り出して</p> <p>・体に力がこもる</p> <p>・目がぴかっと</p> |
| | 5 | <p>◎火事の時のじんざの様子や気持ちを読み取る。</p> <p>・じんざの行動や会話から気持ちを想像する。</p> | <p>読 火事に立ち向かうじんざの気持ちを読み取っている。(発言・ワークシート)</p> | <p>・だしぬけに</p> <p>・まっしぐら</p> <p>・ひとかたまりの風になって</p> <p>・ウォーツ</p> |

| | | | | |
|------------|-----------|---|--|--|
| | 6 (本時) | <p>◎サーカスのおしまいの日の人物の気持ちを想像し、自分がじんざに言いたいことを考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じんざがないサーカスの舞台の様子を読み取る。 ・おじさんとお客の気持ちを想像する。 ・自分がじんざに言いたいことを考える。 | <p>読 じんざのいないサーカスの様子、おじさんやお客の気持ちを想像し、自分がじんざに言いたいことを考えながら読んでいる。 (発言・ワークシート)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・五つの輪 ・～を、みんなが知っていたので |
| 第三次 (2) | 7 | <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">じんざへ手紙を書き、友達と読み合う。</p> <p>◎じんざへ手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語を読んだ感想がどの叙述に基づいているか、自分の経験などどう関連しているか明らかにし、「じんざへの手紙」という形式で書く。 | <p>読 自分の感想をじんざへの手紙という形式でまとめている。 (ワークシート)</p> <p>関 心がひかれるところに着目しながら感想を手紙にまとめようとしている。</p> | |
| | 8 | <p>◎じんざへの手紙を読み合い、感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と感想文(手紙)を交換して読み合い、読んで思ったことを伝え合う。 <p>◎人物の気持ちの変化に気をつけながら、まとめの音読をし、単元を振り返る。</p> | <p>読 自分と友達の感想を比べ、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。(観察・発言)</p> <p>伝 「漢字仮名交じり文」という表記の仕方に気をつけて、文章を読んでいる。</p> | |

6 本時の指導（6／8時間）

(1) 目標と具体の評価規準

【目標】

サーカスのおしまいの日の人物の気持ちを想像し、自分がじんざに言いたいことを考えることができる。

【評価規準 B】

じんざのいないサーカスの様子やライオン使いのおじさんとお客の気持ちを想像し、自分がじんざに言いたいことを考えながら読んでいる。

(2) 展 開

| 段階 | 学習内容及び学習活動 | 指導上の留意点（・）個に応じた支援（◎） 評価規準（□）（方法） |
|------------|---|---|
| つかむ 5分 | 1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">サーカスのおしまいの日の人物の気持ちをそうぞうしよう。</div> | ・火事の時のじんざの行動と、じんざがいなくなったことを押さえる。 |
| 深める 35分 | 3 第5場面を音読する。 4 じんざのいないサーカスの舞台の様子を読み取る。 (1) おじさんの気持ちを想像する。 (2) お客の気持ちを想像する。 5 自分がじんざに言いたいことを考えてワークシートに書く。 | ・ライオン使いのおじさんやお客の気持ちを考えながら読ませる。 ・おじさんやお客の行動、舞台の様子を確かめる。 ・おじさんは、じんざがいないのになぜ、五つの火の輪を用意したのか考えさせる。 ・どんな気持ちでむちを鳴らしているのか考えさせる。 ◎第一の場面では、火の輪が二つか三つだったことにも触れる。 ・お客は何に対して、どんな気持ちで拍手をしているのか考えさせる。 □ おじさんとお客さんの気持ちを想像し、自分がじんざに言いたいことを考えながら読んでいる。(ワークシート・発言) |
| まとめる 5分 | 6 学習のまとめをする。 7 次時の学習内容を知る。 ・感想をじんざへの手紙にまとめることを確かめる。 | ・わかったことや感想を発表させる。 |

(3) 板書計画

五つの火の輪

ひとり

いっしょうけんめい
手をたたいた

ライオンは
いない

サーカスのライオン

人物の気持ちと変化を考えながら、
感想を伝え合おう。

サーカスのおしまいの日の人物の気持ち
をそうぞうしよう。